

多種多様、淡水魚たちの生態と生活史 淀川水系魚類名鑑

希少野生動植物保存推進員
横山 達也

シマヒレヨシノボリ

Rhinogobius sp. BF

本種はヨシノボリと呼ばれるグループに含まれるハゼの仲間です。このヨシノボリの仲間の分類については、以前から諸説があり、分類学的な位置づけがされないままでしたが、近年、遺伝子レベルの研究が進み、そのほとんどが整理されました。このシマヒレヨシノボリは、以前はトウヨシノボリの仲間の縞鰭型と呼ばれたものです。他に橙色型、穴道湖型、偽橙色型（房総型）の4型に分類されていました。しかし、遺伝



初夏になると
若魚が遡上してくる

的・生態的に他の型と明瞭に区別がつけられたことから、独立種として分けられました。

分布は、東海地方の一部、近畿、瀬戸内海の周辺の西日本に分布し、流れのほとんどない池沼や水路などに生息しています。本種のオスは、第1背



ビレが伸長せず（他のヨシノボリのオスは伸長する）、尾ビレに縞模様があるなどの特徴がみられます。全長は最大で約5cm、他のトウヨシノボリなどに比べると寸詰まりな体形です。繁殖期は5〜7月頃で、オスが岩などの下に穴を掘り、そこにメスを迎え、オスが孵化するまで卵を守ります。ハゼの仲間ですが、一生を淡水域で過ごします。環境省レッドリストに準絶滅危惧に指定され、近年、生息数が減少しています。

under the water

花想鳥感

四季折々、
水辺の生物多様性

高槻市立自然博物館 主任学芸員
高田 みちよ

淀川のカラス

大阪には4種類のカラスがいます。ハシボソガラス、ハシブトガラス、ミヤマガラス、コクマルガラスです。このうち、ミヤマガラス、コクマルガラスは冬鳥で、淀川など一部の地域に飛来するちょっと珍しい鳥。みなさんに身近なカラスはハシボソガラス、ハシブトガラスです。淀川のような広い草地にはハシボソガラスが多く、群れで歩きながら餌をついばんでいる姿がよく見られます。どちらも真っ黒で見分けにくいかもしれませんが、歩きながら土に嘴を突っ込んだり、石をひっくり返したり、せわしく動いているのはハシボソガラスです。一方のハシブトガラスは本来山の鳥で、歩くのは不得意。木の上から地上をじろっと眺め、餌があれば飛び降りてくる、というような餌の取り方をします。

時々カラスが人を襲った、というニュースがありますが、カラスにも襲うだけの事情があります。カラスの体重は600g程度。ヒトを60kgとすれば1/100の小ささです。ヒトの100倍の6tといえばアフリカゾウぐらい。カラスがヒトという巨大生物に立ち向かう心境になるのは、子どもを守るためです。巣やまだ十分に飛べない巣立ちビナに人が近づいた場合にのみ、子どもに近づく危険な大動物を排除しようと襲ってきます。といってもカラスだって怖いので、大声でガアガア叫ぶ、近くを飛ぶ、後ろから足でコツッと蹴る程度。カラスに襲われて大怪我をすることは通常ありません。それより



●ハシボソガラス

ハシブトガラス●



も、カラスがこちらを見て大声を出していたら、そっと離れてあげてください。

これからのシーズンは子育ても終わり、カラスたちも落ち着いて餌を食べたり遊んだりする姿が観察できます。カラスの行動は見ていて飽きない面白いシーンがたくさんあります。何をしているのかな？とじっくり観察してみてください。

the waterside

the sky & land

水辺の

虫眼鏡

川に棲む水生生物の魅力的な生態

人を自然に近づける川いい会 捕獲番長 川島 大助

サワガニ

淀川の淡水域には、サワガニとモクズガニの2種のカニが生息しています。モクズガニは海と川を行き来する回遊性のカニですが、今回ご紹介するサワガニは生涯を淡水で過ごします。名前からも分かるように沢などの水のきれいな水域に生息し、水質指標の生物（水質階級 I =きれいな水域）にも指定されています。甲幅は20〜30mm、体色は赤〜黒褐色、甲羅には毛はなく滑らかです。

夜に活動するため、日中は石の下、隙間などに潜んでいます。雨の日は日中でも行動し、川から離れてた樹林内などで見られることもしばしばあります。食性は雑食性で、小型の水生昆虫や陸生昆虫類、ミミズ、藻類などいろんなものを捕食します。活動期は春〜秋で、寒くなると川の近くの石の下などで冬眠します。繁殖期は春〜初夏で、交尾後、メスは直径2mm程度の卵を産卵し、腹脚に抱えて保護します。卵の数は他のカニに比べると少ないですが、卵の大きさは大粒です。幼生は卵の中で変態し、孵化した時には、すでにカニの姿になっています。孵化後の稚ガニは、しばらくは母ガニの腹部で保護されて過ごします。



せわしく餌を口に運ぶ姿は
見えて飽きない



今の時期は、今年生まれた小さいサワガニ、生まれて1年以上経った大きいサワガニなど、大小様々のサワガニが活動しています。淀川本流では三川合流〜上流（宇治川、桂川、木津川）の礫帯でしばしばサワガニを見かけます。また、支流（安威川、芥川など）の礫帯では、ごく普通にサワガニを見ることができます。サワガニの採集は、河原の石をひっくり返し、石の下に潜っていたサワガニを見つけ、手づかみする方法です。ぜひ採集して観察してみてください！

the worst 100

侵略的外来生物

淀川ワースト100

ヒユ科 ナガエツルノゲイトウ
Alternanthera philoxeroides

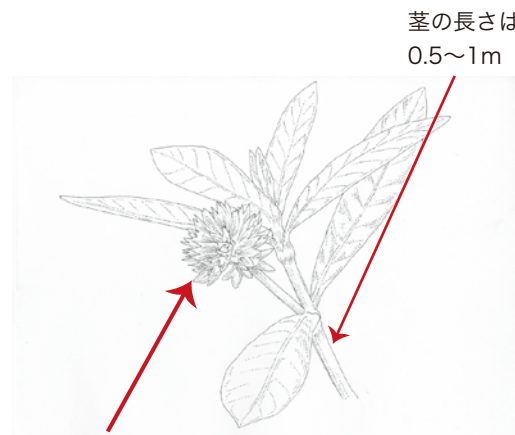
淀川管内河川レンジャー 石山 郁慧



原産地は南アメリカ、北アメリカ、アジア、オセアニア、アフリカ。多年生草本植物。葉の腋に1〜2個の白い花がつく。花の大きさは1.5cmほど。冬でも花を咲かせる強い植物である。観賞用の水草として流通していたものが、各地に広がり定着してしまった。水草でありながら乾燥には非常に強いので、水中から陸上まで育成する。水面をマット状に覆って繁茂するため、水流を停滞させたり、船の通行を妨げるなどの被害がある。冬期に茎葉は枯れるが、根茎は越冬する。しかも、茎の破片からでも栄養繁殖するため、駆除作業する際には注意が必要だ。



●かつて庭窪ワンドでは大繁殖していたが、何年にも渡り山口レンジャーアドバイザーが根気よく駆除している。しかし、まだ殲滅には至っていない。



茎の長さは
0.5〜1m

花の大きさは
約1.5cm

AN INVADER